

| | | | |
|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------|
| 1. 科目名 (単位数) | 精神保健福祉援助技術演習 (2 単位) | 池袋・名古屋 | SSMP5306 |
| 2. 授業担当教員 | 大山 勉 | | |
| 4. 授業形態 | 演習 | 5. 開講学期 | 秋期 |
| 6. 履修条件・他科目との関係 | 履修の条件はなく、研究領域が精神保健福祉領域以外の人も歓迎 | 履修形態 (通信教育) | |
| 7. 講義概要 | 精神保健福祉援助について、その理念・価値、方法などについて、関連する文献 (英語を含む) 購読も含めた演習形式で学ぶ。報告者を決めて各回のテーマについての概要と文献紹介を行なってから、全員で討論することにより理解を深める。 | | |
| 8. 学習目標 | 精神保健福祉分野におけるソーシャルワーカーの、支援理念・価値、方法などについて理解し、自分の言葉で説明できること。特に海外におけるエビデンスに基づく先駆的实践について、その理念と方法や実証研究などについて深く学び、優れた実践・研究者となるための一助とする。 | | |
| 9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題 | 受講者は少なくとも2回のレポート作成と発表を行い、講義の終わりにはレポートを作成・報告すること。2回のレポートは、決められたテーマについてA4版2~3ページ程度のレジюмеと発表用パワーポイントを作成しプレゼンテーションを行う。最終レポートは5,000字程度の論文形式で作成し報告・提出する。 | | |
| 10. 教科書・参考書・教材 | 【教科書】 教科書は指定しない。受講生や教員の作成したレジюмеや文献を配布する。 【参考書】 精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書 2018/2019』中央法規出版 アメリカ連邦保健省薬物依存精神保健サービス部編著『科学的根拠に基づく実践プログラム (EBP:Evidenced-Based Practices)』日本精神障害者リハビリテーション学会 参考文献については、授業の中でその都度お知らせする。 | | |
| 11. 成績評価の規準と評定の方法 | ○成績評価の規準 「8. 学習目標」を達成することができたかどうかを基準に判断する ○評定の方法 日常の授業態度等 30% レポート・プレゼンテーション I 20% レポート・プレゼンテーション II 20% 最終レポート 30% | | |
| 12. 受講生へのメッセージ | 精神障害者支援のあり方について、基盤となる理念・価値、実践の方法などについて学び、質の高い支援とはどのようなものか一緒に考えていきたい。 | | |
| 13. オフィスアワー | 初回にお知らせする。 | | |
| 14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】 | | | |
| 1. テーマ | オリエンテーション、精神疾患と精神障害 | | |
| | 【学習の目標】 精神疾患や障害について知り、問題意識を明確にする 【学習の内容】 精神疾患と障害についての基本的事項を理解するため配布した資料の読み合わせ 【キーワード】 統合失調症、うつ病、障害者支援制度 【学習の課題】 自己紹介の中で、自分がこれまで学んできたこと、精神障害の捉え方などを報告し、問題意識を明確にする 【参考文献】 精神医学のテキスト「精神疾患とその治療」弘文堂、中央法規出版等 【学習する上での留意点】 受講者自身のもつ精神障害者のイメージ、よい支援とはどのようなものか事前にイメージしてくる | | |
| 2. テーマ | 精神保健医療福祉の歴史、現状と課題 | | |
| | 【学習の目標】 精神障害者の処遇の歴史、現状と課題を理解する 【学習の内容】 受講生の発表または教員配布の資料に基づきディスカッションを行う 【キーワード】 精神保健福祉法、障害者総合支援法 【学習の課題】 発表担当者は事前準備をしてプレゼンテーションを行う、また受講者全員事前学習が求められる 【参考文献】 厚生労働省による患者調査、「精神保健福祉法」「障害者総合支援法」などの関連法 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問したり討論に加わることが求められる | | |
| 3. テーマ | 精神障害者の人権問題① | | |
| | 【学習の目標】 精神障害者の人権について、その歴史的経過、現状と課題について知る 【学習の内容】 受講生の発表または教員配布の資料に基づきディスカッションを行う 【キーワード】 自己決定 強制入院 支援者のジレンマ 差別・偏見 社会的排除 【学習の課題】 発表担当者は事前準備をしてプレゼンテーションを行う、また受講者全員事前学習が求められる 【参考文献】 配布資料 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問したり討論に加わることが求められる | | |
| 4. テーマ | 精神障害者の人権問題② | | |
| | 【学習の目標】 全人共通の人権と障害者特に精神障害者の人権問題について考える 【学習の内容】 受講生の発表に基づきディスカッションを行う 【キーワード】 宇都宮病院事件 【学習の課題】 発表担当者は事前準備をしてプレゼンテーションを行う、また受講者全員事前学習が求められる 【参考文献】 大熊一夫『ルボ・精神病棟』朝日新聞社、宇都宮病院事件の新聞切抜き 【学習する上での留意点】 報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問したり討論に加わることが求められる | | |

| | |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. テーマ | 精神障害者の生活のしづらさと支援のあり方 |
| | <p>【学習の目標】精神障害者が地域生活をする上で、どのような生活のしづらさがありどのような支援が必要か理解する</p> <p>【学習の内容】受講生の発表または教員配布の資料に基づきディスカッションを行う</p> <p>【キーワード】生活のしづらさ、精神障害者への地域生活支援</p> <p>【学習の課題】発表担当者は事前準備をしてプレゼンテーションを行う、また受講者全員事前学習が求められる</p> <p>【参考文献】谷中輝雄『生活支援 精神障害者生活支援の理念と方法』やどかり出版</p> <p>【学習する上での留意点】報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問したり討論に加わる事が求められる</p> |
| 6. テーマ | 精神障害者を支援する際の理念・価値 |
| | <p>【学習の目標】社会福祉の観点から支援のあり方についての基盤となる理念や価値について学ぶ</p> <p>【学習の内容】受講生の発表または教員配布の資料に基づきディスカッションを行う</p> <p>【キーワード】ノーマライゼーション、生活の質 (QOL)、リカバリー</p> <p>【学習の課題】発表担当者は事前準備をしてプレゼンテーションを行う、また受講者全員事前学習が求められる</p> <p>【参考文献】WHOによる国際障害分類 (ICIDH) や国際機能分類 (ICF)</p> <p>【学習する上での留意点】報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問したり討論に加わる事が求められる</p> |
| 7. テーマ | 医学モデルと社会モデル、精神障害者のリカバリー① |
| | <p>【学習の目標】リカバリーの背景にある医学モデルと社会モデルについて、それぞれの特徴を理解する</p> <p>【学習の内容】受講生の発表または教員配布の資料に基づきディスカッションを行う</p> <p>【キーワード】ICIDH ICF 疾病と障害の併存 リカバリー</p> <p>【学習の課題】発表担当者は事前準備をしてプレゼンテーションを行う、また受講者全員事前学習が求められる</p> <p>【参考文献】C.A. ラップら『ストレングスマodel リカバリー志向の精神保健福祉サービス 第3版』金剛出版</p> <p>【学習する上での留意点】報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わる事が求められる</p> |
| 8. テーマ | 医学モデルと社会モデル、精神障害者のリカバリー② |
| | <p>【学習の目標】医学モデルと社会モデル、精神障害者のリカバリーについて学ぶ</p> <p>【学習の内容】概要を理解した上で、事例や文献を読み合わせることにより理解を深める</p> <p>【キーワード】ICIDH ICF 疾病と障害の併存 リカバリー</p> <p>【学習の課題】発表者はレジュメを作成し 15 分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること</p> <p>【参考文献】C.A. ラップら『ストレングスマodel リカバリー志向の精神保健福祉サービス 第3版』金剛出版</p> <p>【学習する上での留意点】報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問し討論に加わる事が求められる</p> |
| 9. テーマ | 支援事例検討① |
| | <p>【学習の目標】精神疾患を発症した人を精神科医療につなげる方法について、ケースワークと支援システムの問題から考える</p> <p>【学習の内容】事例と現状の法律や制度を通じて、上記の課題について学ぶ</p> <p>【キーワード】受療支援、精神保健福祉法第 34 条</p> <p>【学習の課題】事前に配布した事例を理解し、支援のあり方について話し合う</p> <p>【参考文献】配布資料</p> <p>【学習する上での留意点】事例検討として、積極的に質問し討論に加わる事が求められる</p> |
| 10. テーマ | 支援事例検討② |
| | <p>【学習の目標】精神障害者の退院支援や地域生活支援のあり方について、支援理念と照合しながら考える</p> <p>【学習の内容】配布した精神障害者の事例について検討する</p> <p>【キーワード】退院支援、パターンリズム</p> <p>【学習の課題】事前に配布した事例を理解し、支援のあり方について話し合う</p> <p>【参考文献】配布資料</p> <p>【学習する上での留意点】事例検討として、積極的に質問し討論に加わる事が求められる</p> |
| 11. テーマ | 支援者の自己覚知、倫理的ジレンマ |
| | <p>【学習の目標】支援者の価値観や対人関係のあり方が、支援に反映されることについて学ぶ</p> <p>【学習の内容】支援者のバウンダリー調査やアメリカにある精神障害者支援機関「ビレッジ」で行なっているスタッフの倫理調査（質問紙）を各自実施して、その結果を踏まえて討論する</p> <p>【キーワード】自己覚知、バウンダリー、支援者のジレンマ</p> <p>【学習の課題】概要を学んだ上で、支援者の価値観などが支援に影響を与えた事例（文献でも体験例でも可）を検討し深める</p> <p>【参考文献】配布資料</p> <p>【学習する上での留意点】内容について、自分なりの総括しておく</p> |
| 12. テーマ | 精神保健医療福祉領域における研究 |
| | <p>【学習の目標】精神保健医療福祉領域におけるこれまでの研究を知り、その意義を考える</p> <p>【学習の内容】今後の精神障害者への支援の質を高めるための調査研究の重要性について学ぶ</p> <p>【キーワード】抗精神病薬の開発、「アサイラム」、ルボ・精神病棟、実証研究</p> <p>【学習の課題】大きな影響を与えた（インパクトのあった）と思う研究を各自が選び、簡単に紹介する</p> <p>【参考文献】配布資料</p> <p>【学習する上での留意点】意味のある研究とはどのようなものか、各自考えてみる</p> |
| 13. テーマ | 科学的根拠に基づく精神障害者支援プログラム① |
| | <p>【学習の目標】精神障害者支援における科学的根拠に基づく実践についての基本的理解をする</p> <p>【学習の内容】科学的根拠に基づく実践の必要性について学び、次回以降各論の準備をする</p> <p>【キーワード】EBP(Evidence-Based Practices)、ACT (Assertive Community Treatment)、Psycho-Education</p> <p>【学習の課題】発表担当者は事前準備をしてプレゼンテーションを行う、また受講者全員事前学習が求められる</p> |

| | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| <p>【参考文献】参考図書に取り上げた「科学的根拠に基づく実践プログラム（EBP: Evidence-Based Practices）」 に目を通してくる</p> <p>【学習する上での留意点】なぜ今 EBP が求められているのか、問題意識を持って臨む</p> | |
| 14. テーマ | 科学的根拠に基づく精神障害者支援プログラム② |
| <p>【学習の目標】具体的な実践例として（援助付き雇用：Supported Employment）の意義や効果を考える</p> <p>【学習の内容】援助付き雇用の背景と意義・方法・効果等について基礎的理解をした上で、文献紹介を通じて深める</p> <p>【キーワード】Place-then-Train モデル、On the Job Training、ジョブコーチ</p> <p>【学習の課題】発表者はレジュメを作成し 15 分程度の報告を行う。他の人も予備学習をした上で参加すること</p> <p>【参考文献】配布資料</p> <p>【学習する上での留意点】報告者の発表を聞いたうえで、積極的に質問したり討論に加わることが求められる</p> | |
| 15. テーマ | レポート発表、総括 |
| <p>【学習の目標】課題レポートの発表、これまでの学習を振り返り、自分の中に位置づける</p> <p>【学習の内容】発表とディスカッションとこれまで学習したことを位置づける</p> <p>【学習の課題】課題レポートを作成し発表する</p> <p>【学習する上での留意点】今後の研究や将来の支援実践に役立つものであってほしい</p> | |